

## チツク治療には抑肝散など処方

**Q** 五十二歳、女性。特別の原因もないのに、疲れてきたり、人前で話をしてしていると右のまぶたの下がけいれんしてきます。大学病院ではチツクといわれ、安定剤と筋弛緩（しかん）剤をもらっていますがよくありません。

消化器症状との関連が強い場合は「脾」の異常、老化などと関連する場合は「腎」の異常ととらえる。

**A** チツクが起こる原因はいろいろあり、現代医学的治療が優先される場合もある。質問者の場合種々の検査で異常なしとのことであるから、心身症的要素が強いと思われる。

こうした病気に対する漢方医学の考え方であるが、漢方では生体の種々の機能を「肝」「脾（ひ）」「腎（じん）」などの機能として説明する。緊張や精神的興奮が原因の場合は「肝」の異常、

チツクは基本的には「肝」の機能の失調による筋肉のけいれんと考えられる。そこで抑肝散（よくかんさん）のような肝の機能のたかぶりを抑える処方をする。また芍薬（しゃくやく）や厚朴（こうぼく）という生薬が筋肉の緊張を調節する目的でしばしば加味される。

ところで質問者は胃腸が弱く、腹痛や便秘異常、夜のこむらがえり、寝汗なども訴えているので、芍薬を含み胃腸の働きを中心に全身の活力を高め、自律神経の調節をする小建中湯（しょうけんちゅうとう）や黄耆建中湯（おうぎけんちゅうとう）などがまず勧められる。